

さざなみノイエ

子どもと水の出会いの場を園庭につくりたい。 悩み続けた1年間。仮設と常設の組み合わせで解決。

保育環境づくりのポイント

子どもと水の出会いの場、遊びの場を園庭につくりたいことは決まっているが、何かを作れば狭くなる。いまあるものの再発見、散歩に行けば良い、夏だけ動かせるようにすれば良い…など、一年のなかで変化する園庭像を見出した。

～こどもたちのこの力を育みたい～

☒感じる・気付く力
 ☒うごく力
 ☒考える力
☐やりぬく力
 ☐人とかわる力

取組み内容

1. GROUND WORK

水環境を整える準備として、

保育者・地域のみなさんと水捌け改善作業[5月]

水をダイナミックに使う遊び環境を作りたいという想いから、まずはグチャグチャになりやすい敷地の水捌け改善の基礎として、敷地外縁部に、排水・通気の土木作業を実施した。ここに、園庭全体の水の流れをつなげていく。



2. POINTS OF VIEW

「水」と「子ども」の関係を充実させていきたい。

どんな視点で考えられるだろうか？ スタッフで意見を出し合う。

【視点】現在ある子どもたちの水との姿から、こんな関わりを持てたらよいという様々な状況を想像し、スタッフで意見交換する。

【分類】すでに園庭にある／散歩に行けば、ある／少しは実現しているがもっと広げたい／ほとんどない／の4段階に分類した。

【フォーカス】「少しは実現しているがもっと広げたい場面」を中心に検討する。

すでに園庭にある ・落ちてくる水などをじっくり眺めている ・溜めた水、量がある水に、入る。 ・ものを水で冷やす。	少しは実現しているがもっと広げたい ・量の多い水が落ちてくる、圧を感じる、受ける ・入ることができる水、深さのバリエーション ・水・静の遊び／動の遊びのよい関係 ・水の動きが見える、流とか ・空を滑った状態の水で遊べる ・コースを持つ、自分で出す、主導権を持つ ・循環、つながり、流れ、溜まってしまわない ・使って遊べる水、媒体として自由に換える ・生活で使う、飲む食べる…	ほとんどない ・光と水の関係を楽しむ ・音と水の関係を楽しむ ・雨垂れ石をも穿つようなこと ・触れられない、眺める水 ・大きな面を仕上げる
--	---	---

こうして整理して見渡してしてみると、いかにトイレに何かを流すのが魅力的かが分かりました。。。

3. LAYOUT / DESIGN...? → !

どこになにを？

水場の具体的な設計で悩み続ける[2月まで]

【ワークショップ】水を扱うためのデザインにはどんなものがあるだろう？

ドローイングや、粘土造形のワークショップ（園内研修）でイメージを膨らませる。

【矛盾】いろいろ水場の形を考えるが、大きく水遊びがしたいエリアに水場を常設することには、動線のデメリットが大きく、計画が進まない。ずっとどうすれば良いのか悩んで時間が経つ。。。

【閃き】穴を掘って園庭の起伏を変えたり、様々な配置を検討しながら悩む。結局に賛成で、とうとう、仮設と常設を組み合わせるアイデアで全体計画が出来た！



4. MAKING

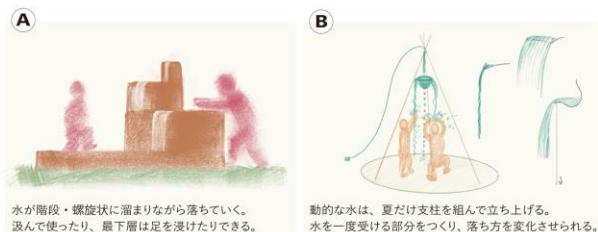
（本当に）ようやく…作り込みの方針が決定したので、

あとは専門家や地域のみなさんと作り上げるのみ！

A：園庭の奥エリアに比較的静的な常設の水場の立ち上げ。

B：園庭中央の遊びが広がる動的なエリアには仮設の水環境を作る。

という水ポイントの分散を決定。年度内の完成を目指して、専門家と相談し、造形作業や、水捌け改善仕上げ作業の準備をしています。[2月初旬現在]



水が階段・螺旋状に溜まりながら落ちていく。流んで使ったり、最下層は足を浸けたりできる。

動的な水は、夏だけ支柱を組んで立ち上げる。水を一度受ける部分をつくり、落ち方を変化させられる。



＜今回の取組みを通して＞子どもたちとのあそびや暮らしの中で、私たちの使う水が自然に与える影響をベースに考えた今回の取り組み。既にある、風や水の流れ、草木への影響を鑑み、自然に逆行せず共存する水場とはどのようなものか。更に、今ある子どもたちと水との関わりを見つめ、園庭に呼びたい水の要素とはどのようなものか。粘土造形や土壌観察など、実際に手を動かしながら自然について考察し、日々の観察と対話を重ねることは、続いていく自然と共存する保育に生かされる経験となった。絶えず変化していく自然や子どもたちの姿を、リアルタイムでキャッチしながら、私たちおとなも感覚を働かせ、私たち自身や保育環境を柔軟に変化させていくことを、引き続き大切にしていきたい。担当 山田菜々子